平成２７年度　第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２７年５月１２日（火）

【鉄矢会長】　　平成２７年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。

資料の確認をお願いします。

【中村学芸員】　　はい。次第が１枚と、資料１、資料２、年間スケジュールです。資料３は、収集評価の審議関係の資料で、資料４が予算状況について、資料５「第５期運営協議会の提言の作成について」というものがあります。それ以外に、教育普及事業のイベントのアンケートが合わせて４部ございますので、ご確認をお願いします。あと、皆様のところに封筒を置いているのですが、そちらに平成２３年度から２５年度の年報と、あと今回の展示のチラシ、リーフレット、招待券、あと２月に開催したワークショップのチラシが入っておりますので、ご確認ください。

【鉄矢会長】　　お手元ありますでしょうか。また途中、気がついて、なかったらお伝えください。では、人事異動がありましたので、事務局の体制が変わったということで、館長から。

【平岡委員（館長）】　　では、私から。４月１日で人事異動がありまして、美術館の勤務職員等が変わりしましたので、簡単に紹介をさせていただきます。まず初めに、当館、非常勤の学芸員として５年間勤務いたしました荒木和が期間満了により退職いたしまして、後任として鈴木伸子が参りましたので、よろしくお願いいたします。それから、今、声をかけに行きましたが、事務の担当をしておりました山田が退職いたしまして、後任として井上信之が参りました。おっつけ上がってくると思いますので、先に名前だけご紹介をさせていただきます。それ以外の体制につきましては、学芸員の中村、係長の吉川、それから私については特に変更がございませんでしたので、引き続きよろしくお願いします。薩摩先生も、引き続き学芸顧問としてお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、本日、用務で欠席をしておりますが、指導室長も人事異動で交代しております。前任の河合から、４月１日付で小林正隆に交代しております。本日、急用で欠席をしておりますが、新旧ともども、皆様によろしくと申しておりましたので、お知らせさせていただきます。

【事務局（井上)】　　山田の後任の井上と申します。よろしくお願いいたします。

【平岡委員（館長)】　　以上で終了します。

【鉄矢会長】　　では、事業実施報告をお願いします。

【中村学芸員】　　では、資料１をごらんください。現在、企画展「生誕１２０年　河野通勢と中村研一」が開催中です。３月２４日から始まりまして、現在入館者数は１,００２人ということです。このスライドが内覧会の様子でして、河野通勢さんのご遺族の方々が、ご挨拶をしてくださいました。こちらは５月２４日までで、今回は、無料観覧日の日もございますので、いろいろな方に見ていただきたいと思っております。また、関連企画としまして、講演会を山村副会長にお願いし、開催いたしました。その様子がこちらです。参加者は１５名で、この小金井に住んでいた作家の話ですとか、あとは中村研一、河野通勢についてのそれぞれお話をしていただきました。詳しい感想などは、各自アンケートの資料を見ていただければと思うのですが、好評のイベントでした。

続きまして、ワークショップの「描いてみよう！いろんなこがねい」を実施しました。河野通勢、中村研一ともに自宅付近の絵などを描いていますので、それを参考にいろいろな画材を使って描いてみるという企画でした。参加者が少なかったのですけれども、個人指導のような形ですごく満足しましたというアンケートの結果もいただきました。こういった感じで、描いて楽しんでいただけたのかなと思っております。

ギャラリートークは、３月２８日に行いまして、そちらには５人参加しました。最終日の前日５月２３日に、もう一回ギャラリートークが開催されます。

展覧会の内容に関しては以上です。

続きまして、教育普及事業に関してご報告申し上げたいと思います。２ページ目をごらんください、「ビーズ刺繍でつくる！キラキラワッペン・ワークショップ」というものを閉館中の２月２１日に開催しました。アクセサリー作家の方を講師として招きまして、山本彌さんという方ですけれども、基本的にこういう雰囲気で、女子会みたいな感じのワークショップになったのですが、ビーズ刺繍で作品をみんなでつくりました。ラウンジで行った理由としましては、中村研一の奥様の富子さんも、手芸、刺繍作家でレース刺繍などをよくしていたからです。写真には写っていないのですが、展示ケースに富子さんのつくったレースも展示したりして、その雰囲気を楽しみながら刺繍するという企画でした。皆様でわいわい、パーツを選びながら刺繍するという感じで、でき上がったのがこういったものです。参加者は１０名でした。

続きまして、②番の「親子で美術を楽しもう！おはなしのへや」で、定例的に行っているワークショップですが、４月２８日に開催したものがこちらの写真です。ちょうど、こどもの日の前ということもあって、こいのぼりの絵本の読み聞かせの話をしていただきました。また、他の美術館からポスターがたくさん送られてきますので、それを再利用して、こいのぼりをつくりまして、これにひもをつけて、ポシェットみたいな感じにして、皆さん持ち帰られました。美術館ならではのポスターを生かした工作もしながら楽しみました。大人も含めて１５人の方に参加していただきました。

教育普及事業に関しては、以上です。

続きまして、（３）「その他」とございますが、平成２６年度第２回収集評価委員会を３月３０日に開催いたしました。今回、去年の夏ごろから寄贈の申し出がかなりありまして、中村研一による書簡および水彩作品ですとか、板絵ですとか、油絵の作品などです。資料３です。こちらは抜粋ですけれども、こういったものの寄贈申し出があったということで、参考資料がございますので、ご覧ください。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。

質疑等、ありますか。

特になければ、次に平成２７年度事業予定についてということで、よろしいですか。

【中村学芸員】　　続きまして、今後開催予定の展覧会とワークショップ等について、簡単に説明したいと思います。

まず、今回展示が終わりましたら、夏休みの所蔵作品展ということで、７月１８日から「けんぼしゃんの夏休み」という仮タイトルですけれども、小中学生無料の展覧会を行いたいと思っております。所蔵展が開催される前に、教育普及事業としまして、２年前にも来ていただいたアニメーション背景美術家の牟田いずみさんという方を講師に、「水彩で夏を描こう」というワークショップを閉館期間中の７月１２日に開催予定となっております。また教育普及事業としまして鑑賞教室が今年度も開催予定となっておりまして、今回の展示の中でも、小学校２校が鑑賞する予定となっております。

開催予定に関しては以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。

何かご質問はありますか。

【村澤委員】　　ないです。

【鉄矢会長】　　では、５番目になります。平成２７年度予算についてということです。

【吉川係長】　　それでは、予算を確定いたしましたので、先回の運営協議会では、内示の状況をお示ししまして、資料は加筆させていただきましたけれども、今年度の予算はこういう状況でございます。状況は下に書いてあるとおりで、内示のときは、助成金の関係が１個しかなくて、あとは結果待ちみたいな状態だったのですが、最終的に、美術館に関してはこの２つの助成金が取れております。串田展、美術館展覧会のみのものが、公益財団法人花王芸術・科学財団のものでありますが、下記の文化庁のものは、小金井市の芸術文化振興計画推進事業全般ということで、その中に美術館の事業も含まれております。

予算状況については、以上です。

【鉄矢会長】　　ご質問等、ございますでしょうか。

【山村委員】　　少しいいですか。個人的な興味なのですけれども、串田孫一の展覧会はどんな感じのものですか。

【中村学芸員】　　はい。串田さんは、ほんとうに多才な方で、沢山本を出されているイメージや、哲学家としてたくさんエッセーを書かれているというイメージが強いと思います。美術館ということで、串田さんが描いた絵本の原画ですとか、あとスケッチもたくさん残されていて、山の絵とかをたくさん描かれていますので、そういったもの、あとご本人が本の装丁も行われていたので、そういったものを並べて、どちらかというとアートの面から串田さんを振り返ろうと考えています。生誕がちょうど１００年なので、そこを入り口に串田さんの作品世界を知っていただければいいなということで、そういった内容を企画しております。

【山村委員】　　わかりました。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

そのほか、ご質問はありますでしょうか。

では、６番の「その他」、資料５の「第５期運営協議会提言の作成について」、委員長の私からということで、その発信ですよね。

【吉川係長】　　はい、お願いします。

【鉄矢会長】　　私からつくってもらった資料なのですけれども、今回の運営協議会、第５期の任期が終了するまで、第４期からずっと協議してきた、はけの森美術館の運営を振り返って、提言としてまとめていきたいと。皆さんの任期はこの１年で終わるので、それまでに、この１年の中の運営協議会を使いながら、何かしら提言をしっかりまとめておこ

う、ということをしたほうがいいのではないかという提案です。

提言の内容については、今３つぐらい考えております。今期の第４回の運営協議会において、事務局が提案した課題とか、企画の重要性について特化した提言を作成するというのは、別紙の１のほうで、たたき台をつくっています。それから、第３期で提言した内容で、一応運営協議会として、前の運営協議会の中でそういう提言書を出しました。その出したものが実際どうなっているのか、出しっぱなしで、市に出したのに、市はずっとそれをほっておいたのかと、続けてやっている私は、そこを言いたいところもありまして、そういう意味で、課題として残っているところをもとに提言を作成する。③番目が、第３期運営協議会が提言を出したときよりも、美術館を取り巻く環境、ハード面でもソフト面でもかなり変化しているので、それを踏まえて、この４年間の運営を振り返って、新しい提言としてまとめるというものがあるのではないかということです。

では、提言の①、②のポイントのほうは、すみませんが、事務局でフォローしていただけますか。

【吉川係長】　　わかりました。今、会長はおっしゃらなかったのですけれども、提言の時期ですが、任期の終了に合わせて出すことが通常なのですが、内容によっては予算編成前に出したほうがいい内容のときもありますので、これからその提言の内容について、早急に取りまとめるのか、ゆっくり話し合って年度末まで持っていくのかというところが、検討材料かなと思います。

内容の１の資料の説明をさせていただきますと、別紙の１のほうが、前回の２６年度の最後の運営委員会の中で、予算の編成をしている私ども事務局からの提案で、コンスタントに企画展と所蔵作品展を年間の中でやっていけるようなことを確立したり、企画展の重要性というものについて、運営協議会において改めて協議していただきたいという点をお伝えしました。それに対して、委員の皆様からいただいた意見が、下に抜粋で載っております。

別紙２のほうですが、これは今、会長がおっしゃったとおりに、平成２４年３月１日付で、３期の委員さんたちが終了するときに出した提言です。ハード面はかなり進んではいるのですけれども、なかなかソフト面とか運営の状況などについては、停滞しているという部分がありますので、先ほどの会長のお言葉のとおりでございます。

別紙として、学芸顧問の薩摩先生の意見も添付して出しましたが、このとき、実はこの部屋ができる前の状況で改修の問題があったものですから、その点を、強く提言されてい

る部分があるかと思いますが、今はハードの部分はかなり改良されてきたのではないかというところでございます。ですので、３番目の、環境は確かに変化をしているので、それを踏まえた提言にしていくということかと思っています。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

別紙２のほうを読んでいただくと、１番に、美術館に対する市のビジョンを明確に、明文化してほしいという話ですとか、管理運営実施計画を策定してほしいということ。それから、５年間の運営の中で、１つは、館長は今委員に入っていますけれども、この委員にいることで、非常に外部評価みたいな形で第三者評価機関としてこの運営協議会がこうだよねというところの進み方が進みにくいところがありますので、この運営協議会の委員から外すことが、実は条例を変えないとできないということ。そんな問題があります。それから、人員配置です。常勤学芸員がいないと言っているのがずっと続いていますけれども、それが難しいのであれば、だったらあと１日、休みを増やしてもいいのではないか、それでもう少し健全な運営ができるのだったら、そちらのほうがいいのではないかというものを、出しております。

ですが、これに対して市はどういうことを対応してきたかというと、今の状況ですと、変わっていないところが多いのですね。そんなところを、どうなっているのかと、もう一回提言するのか。今度、これは私の提言ではなくて、一応、前の委員のメンバーで合意して出した提言ですので、それを委員長として出したのですけれども、今期はこういった出し方をするのか。それとももう少し、２階のこの場所もできたことですから、その中でどのぐらいの提言をするかということを考えていきたいと。場合によっては先ほど吉川さんから話があったみたいに、予算の前に出したほうが効果的なものがあるのかもしれません。

私もまだ、提言は出したほうがいいだろうと思っているのですね、このメンバーで終わるときに。でも具体的な内容としては、あれもやっていないではないか、これもやっていないではないかという、つき上げ方は得策ではないとも思っています。ただ、何とか変えたいとか、もっと運営のほうを認めてもらいたいとか、学芸員たちが非常に興味深い企画をやって、楽しい展示を引っ張っていくとか、そういうことをやってきたのを、行政のほうはどう見るのかということですね。どうしても、コミュニティ文化課のほうに出てくる資料だと、もしかしたら入館者数というのがまだずっと残って、入館者数で何か費用対効果みたいな話がされてしまうという話もありますので。

館長、いかがでしょうか。

【平岡委員（館長）】　　私も３年目をここで迎えたのですが、美術館の体制については、もともとこの美術館をいただいたときの、市議会のほうの縛りがかなり存在しているところがあって、そこをどう切り込んでいくかというところと、条例改正というところのステップが、行政としてはかなり難易度が高いなというところがあります。ですので、私も、特に私がこちら側に座っているというのは、難しい部分があったり、委員としての発言ではない発言のほうが多いなという思いもありながら、円滑な運営という趣旨もあって発言させていただいているところもあります。ただ、財政側とも、よく、話をするのですが、単発なり単年度で、毎回、金額や企画の内容についてのやり取りをお互いやるのは不毛だという意見もあります。美術館として全体でどうなのかというような話も、どこかで、こちら側からも話をしなければいけないのではないかということは、向こうからもアドバイスをもらっている一方で、今、会長がおっしゃったように、費用対効果というのは行政としても経営なり経営感覚というのか、そういうものについてある程度必要な部分が出てきているかなと思っています。一方で、ここは全然そういう数字的なものを全く持たずに話をしていることがすごく多いものですから、一般的な経費として、違うジャンルの施設と同等に比較するのではなくて、同じジャンルの施設としては、最低限このくらいの費用対効果のレベルではやっていくべきものなのだということも含めて、説明できるようなものを、こちら側が持った上で話をしないと、結局、毎年空中戦をやっていくようなことにもなるなという思いがあります。そういう部分でも、最後に言ったようなあたりからだけでも、少し、長期的な部分で安定的な整理ができないかなという思いは、私としては持っております。そういう部分でも、今回、企画展というような部分を軸に資料を出してもらっているのは、そのような部分もあります。

【鉄矢会長】　　そうですね。人数ではない数値化の何かのものが。

【平岡委員（館長）】　　そうですね。ただ、そもそも、そういうものを通年というか、何年にもわたって、数字上、形にしていっていないという実情がこちらとしてあるのですね。来館者の数などは把握しているのですけれども、年間どのぐらいのお金がかかっていることに対して、どのくらいの来館者があったとかいう対比を、あまりしてきていないです。ですので、それはそれで必要かなと思っていますし、それが少ないのか多いのかというのは、施設の性質によって全然違いますし、そもそも元を取るという話だったら公立であるべきものではないと思っています。基本レベルとして、このくらいの経営状況だから一般

的で、これ以上、元を取れという話だったら、さらなる先行投資をするのが一般的であるとか、客観的な説明ができるようなものを、こちらも今まで整えてきていないという問題もあるのですね。それは我々がやらなければいけないことなのかもしれないですが。何もデータがない中で、一般論だけで、一般的にこうだよということだけでずっと攻めている状況が、うちは、攻め込んでいる状況があるので、そのようなところも、運営協議会として、一般的に美術館はこういうものなのだという後押しも欲しいです。また、私たちとしても、そういうことは、ほかの美術館でも一般的なのだということ、私たちが言っているのは贅沢を言っているわけではないのだというようなものを、私たちも準備をしていって、初めてその話ができることなのかなと思っています。そういった意味での、こちらとしてのご議論なり後押しをいただけると、ありがたいなとは思っています。答えになっているかどうかわからないのですが。

【鉄矢会長】　多分いろいろな、気持ちは理解するのと、こちらも運営協議会として真摯に向き合って、提言を続けていますので、それが一般論であり、効果がないと言われるのは、遺憾に思います。ただ、一方で、確かにそれが弱いような気も、自分のほうに向ければそういう気もします。あとは、量的な評価と質的な評価という部分の、質的な評価が、日本はすごく難しい部分があるのかなと思っています。

【平岡委員（館長）】　そうですね。どちらかというと、それは、今おっしゃられた前段のほうのお話は、運営協議会さんの一般論が難しいということではなくて、こちらでそういった考えをまとめて出していただいているのに対して、事務方としての説得材料をセットで臨んでいないところが、一つ問題なのかなという意味で申し上げました。決してこちらのほうでやっていらっしゃることが足りないということを申し上げているつもりではないので、そこはお願いいたします。

【鉄矢会長】　はい。

いかがですか。

【上田委員】　もしも、平岡さんが委員でなかったとすると、今のようなお話はこちらでまとめて、提言して、市の側に伝えて、それで返ってくる答えということになるのですか。

【平岡委員（館長）】　現実的に、多分、私がここにいない場合、事務局側にいることになっていて、皆さんの、こういうのはどうですかという質問に答えていくという立場になると思うのです。ですので、ここの中に私が入っていることによって、会としてこういう

考え方を出しますということに、私が参加したからといって、私自身がそれを持ち帰って、課長なり館長という立場で中に行ったときに、実現できる担保というのは実は私自身では限界があるのですね。そうにもかかわらず、提言の中に一人の委員として私が入ってしまっていること自体が、私が委員として入っている中でも自己矛盾が存在しています。逆に私がここに入っていれば、当然この話は実現するだろうという皆さんの期待感に関して、必ずしもお応えできるかどうかわからないという立場もあるものですから、そういう意味で、そもそもどうなのかなというところはあるのですね。ですので、別にここではなくそちらにいるからといって、全然議論に参加しないとか、情報を出さないとか、対極になるとか、対決するとかいうことでは全然ないのですけれども、立場的に私が逆に入っていることのほうが、違和感があるなというのは、私も来たときから思っているところです。ただ、行政の中全体を見ると、必ずしも行政の職員が委員の中にいるのが珍しいとは言えないので、所管の部長が入ったり、所管の課長が入ったりというのは、ほかの委員会でも、散見はされるので、決してここだけ特殊なことをしているわけではないのですが。ただ、自分としては、どういう立場でどこまで自分が発言していいのかということでは、どちらかというと弁明したり、回答したりというほうが多いのかなと。一緒に提案していくのであれば、当然こちらにいないで、違うところで、もう自分が提案して実現していればいいような立場だと思います。ずっとなかなか難しいなとは思っているという意味ですので、何が変わるわけでもないとは思うのですが、私がもし外れたからといって、私の立場というか、この会に対しての私の臨み方が変わるということはないとは思うのですが。

【上田委員】　この委員会に平岡さんが入っていることで何らかのマイナス面もあるでしょうけれども、より有利に進めるとした場合、今言ったのは、ここで１回まとめたものを、どこかに持っていって、返事をもらってというのは、時間がかかるではないですか。こういうふうに持っていっても、それは通らないのではないかというご意見を、さっきいただいたわけですけれども、そのように、利用という言い方は少しずるそうな言い方ですが、有利な条件として持っていくこともできるかなと思って、質問したのですが。

【平岡委員（館長）】　実を申し上げると、多分立場が変わってもそれは言える話かなと思っているのと、あとは、最初からできることだけ提言していただくという話も、逆にどうかという思いもあったりします。皆さんの思いの中で決めていただいたことも併せて出していただいて、初めて第三者機関としての提言だなとは思うので、その中に、逆に実情とか、実際受け取った後の側にも立つ人間が一緒に入って提言すること自体が、というか、

審議をしていったりしていくこと自体が、私自身の中に違和感があるなという意味だけです。どちらにいても、例えばどうなのですかという話をしていただくのは全然構わないとは思うので、それは皆さんのほうにマイナスになるということは多分ないと思います。

【鉄矢会長】　　まず、提言を出すという方向で進めたいと思いますので、合意をしていただけますか。

はい。では、提言を出す方向ということで。その他、ご意見を。

【村澤委員】　　それで、それをいつまでにというところは、さっきのお話の中では、今年度中ということですか。

【鉄矢会長】　　今年度中で。

【村澤委員】　　で、早い時期。

【鉄矢会長】　　はい。今年度中ですけれども、予算というのが９月ですか。

【平岡委員（館長）】　　そうですね。夏から秋にかけてスタートするので、もしその前にということになると、次の７月ぐらいのところで。

【鉄矢会長】　　しっかり揉む時間をつくって。

【平岡委員（館長）】　　そうですね。それで、１０月か１１月にはもうでき上がっていないと、現実的に厳しいかなと思います。現実的には、予算への反映だと、実は次回でできていれば一番ありがたいのですが、正直難しいので。

【鉄矢会長】　　あとは、何に特化するのかというので、例えば、常勤学芸員を雇用するよう言い続けていますけれども、それは形としては言い続けなければいけないことだろうと思いますが、現実化には遠いような気がするのですね。これは、なかなか。もう１個、前回出した、休みをもう１日設けなさいというのは、一つはできそうな話だろうと思うのですが、これはどんな感じですか。

【平岡委員（館長）】　　５日のやり方も、こちらのほうでもう少し可能性をいろいろ考えなければいけないと思っています。それで、極論から言うと条例事項なので、ほんとうに開館日を完全に変えるということになると、条例改正で同じことになりますので、そういう形にするのか、今でも展示会という趣旨も含めて臨時休館の期間をとっていますので、それの延長上のテスト的なやり方としてやること自体が、庁内でオーソライズできるのであればというような、少し変化球もあるのかなと思っています。それは、こちら側の合意形成のところの中で、どこまで可能なのかという範疇だとは思います。

【鉄矢会長】　　あとは今までの企画展をしっかり行ってきたのだから、企画展を行うこ

とはこの美術館で非常に魅力があることなのだから、きちんと企画展を行えるぐらい努力して予算をつけてくれと。あるところから聞くと、中村コレクションがあるのだから、コレクションだけ見せていればいいのではないかという話が聞こえてきたので、それは困るという気持ちを、私は持っています。ですので、その今言った３つのうちの、最後の３つ目が、実は、今期評価していく中で、いろいろな企画展を我々も見せていただいたり、ワークショップをやったりとか、そういう事務局、学芸員のやっている内容を高く評価しているということと、これに対しての予算の削減をどんどん迫るのではなく、これに対して、よりよいことをするものをどうするのかということを、やってほしいような提言をしていくというのはあるのかなと。

３本の、常勤を雇用し、休みをきちんと検討してくれというのと、あとすごく高い評価を得た、こういうことを行っていることが、我々も、運営委員を通じてもそうですし、市民としても非常に高く評価しているので、ここのところをいじめないでくれみたいな話を、どう表現するかでしょうね。

【村澤委員】　ただ、休みを多くすると、逆に見るほうの立場からすると、公的なサービスの低下になるのかなという気はするのですが、近くの施設を見ても、図書館はたしか週１回だったかなと思うのですが。その辺のところがどう整理されるのかと。

【山村委員】　提言をするということは、例えば市長さんに提言をする、そして、公開される。例えばホームページか何かに提言内容が載ったりとか、要するに誰に向けて提言するのかということになると、市長に向けてということになると、市長個人というわけではなくて、小金井市民全体に向けてのアピールだと思うのです。我々、運営委員というのは、小金井市民全員とか、あるいはお客さん、潜在的なお客さんと、美術館の運営側の媒介に、間に入っているのだと思っているのです。間に入ってもいいと思っているのです。内部がこんなに苦しいということも、もちろんわかりますけれども、潜在的なお客さんとか、小金井市民とか、美術ファンとか、そういう人たちにとって、どれだけ利益があるのか、役に立つのか、意味があるのか、益があるのかというところを、アピールしたほうがいいのではないかなと思うのです。その意味というものに対して、現在の水準がこうなので、もっとこの水準を上げてほしいと。今は年間５,０００人ぐらいの入館者だけれども、１万人にしてほしいと。あるいは、教育普及で例えば年間５００人、どれぐらいなのか、教育普及費で年間、延べで３００人だったら、倍にしてほしいというような、そういうことでアピールしたほうが、市長とか、あるいは小金井市民の人と、潜在的な、ホームペー

ジに掲載されてそれを見る人にとっては……。

【鉄矢会長】　　読み取りやすい。

【山村委員】　　はい。もっとよくなるのだなと思ってもらえるのではないか、もっとよくなるための目標を達成するために、体制とか予算とか、もっとつけてもいいのではないかと思ってもらえるのではないかという気がするのです。

【鉄矢会長】　　そのままの体制でやれというのが来ると、大変になってしまう。

【山村委員】　　大変だと思うのですが、提言はあくまでも市民のためであるのだからと思っておりますので、もちろんそういう危険性も、仕事ばかり出て、目標ばかり高くなる。

【吉川係長】　　ほぼ、そうなりますね。

【山村委員】　　それはあるけれども。

【吉川係長】　　でも先生のおっしゃっていることは行政も同じ、そういう提言であるべきだなと、それはそう思います。

【山村委員】　　だから期待が高まるような、何かそんな形ができればいいなと思うのですが。

【平岡委員（館長）】　　それはそうですね、実情を見ると難しいことだらけなのですが、賛成はできるなと思います。なかなかそこのところが、企画展一つにとってもそうですけれども、どのくらい企画展と所蔵作品展で１日当たりの入館者数の違いがあるとか、そのような話を、少しずつは中には入れてはいます。そのような効果とか、今後の広がりとか、そういうところを、もう少し形になるようなことができると、少し違うのかなとは思ってはいるのですが。

【山村委員】　　当然、まずは提言もそうですけれども、今までの活動の評価がまずはもとになるので、これはどんどん誉めたいのです。その方向ができたことによって、教育普及的にも随分活発になっているし、企画展なども、あれだけいろいろな助成金を獲得しているのだから、そういうものをフルに活用して、持ち出しを増やさないで、外から引っ張ってきてやっていることは非常に評価されてしかるべきなので、それはもちろんアピールして、後半部分で、よりよくするためのところは、厳しいことを言ってもいいのではないでしょうか。あるいは、また、もっと期待させるような、どのように書けばいいのかはなかなか難しいですが。

とりあえず私のほうで何かアイデアを出します。それを送りますから。

【吉川係長】　　はい。いただいて、では会長と山村副会長とも相談しながら、原案をつ

くって、次回でたたいてもらうという形でいいですか。

【山村委員】　　それでいいです。たたいていただければ。どんどん盛り込むとか。

【吉川係長】　　そうですね。次回で盛り込んでもらって、ある程度できたものを皆さんに見てもらい、特にそこでご意見がないようだったら、１０月を待たずに公開できるかもしれないし、そこでまだうまく調整がとれないようであれば、また次回にということで。

【鉄矢会長】　　薩摩先生、ご意見を。

【薩摩学芸顧問】　　いい方向に行きそうな気がするのですけれども、山村さんも府中市美術館で非常に苦労されておりますので、良いアイデアを出していただいて、だから構成としては、今まで企画展をこれだけやっている、お金も得ている、それから多目的室ができている、教育普及も充実してきたというようなことをまず述べた上で、基本的にはさっきの３本の柱でいいと思うのですが、例えば常勤学芸員の雇用と言っていないで、現在の嘱託学芸員任期を１０年にできないかとかいうような話の持っていき方もあるのではないかと思っているのです。私自身がどうしても歯切れが悪くなってしまうのは、常勤を置けるとしても多分１人だと思うので、そうすると、大学院を出たぐらいで、２５ぐらいでここに常勤で入って、その人が６０までいるのがいいのかという気も若干するので、場合によっては例えば任期１０年、それで、その間に５年ぐらい勤めて、それ以降、勤めながらどこか次を探してもらって、言ってみれば、ここをステップ台として、次へどんどん出ていくということでもいいと思うのです。人が育って、学芸員自身が育っていくところになるというのも、一つのやり方ではないかと思うのです。

それから、３本の柱で、開館のことに関しては、６日、５日というか、条例改正までやらないで、今までの館長決裁でもってやっているので、そちらの方向で行けるのではないかと。それで、開館日数が減ると思われては困るので、開館日数は減らさない。これは私がもう何度も言っていることなのですけれども、要するに、今、１つの展覧会と展覧会の間に１カ月ぐらい休みをとっているわけです。だから、それをもっと減らす、そちらの休みをむしろ減らす形にして、そのかわり週５日開館にする。だから、単純に言うと、例えば展覧会が３０日なら、週６日開館にすると５週ですから、土日が１０回しかないわけです。これを週５日開館にすると６週ですから、土日が１２回入るわけです。そのかわり、１つの展覧会と展覧会の間を今まで４週間とっていたとしたら、それを２週間に減らすとかいうことを、少し具体的にきちんと書けば、問題ないと思います。それから、とにかく週４日勤務なので、週５日勤務になると、例えば学芸員が２人でも、水・木・金・土勤務

と、水・木・金・日勤務になれば、水・木・金と、平日３日は顔がそろうわけですね。そういういろいろな利点があるので、今のやり方が続くのだったらその方向を、私が文章を書きますけれども、そういうことで、要するに日数を減らすのではないということは、きちんと、むしろ増やす方向で考えてもいいと思っていますね。

あともう一点は何でしたか。

【鉄矢会長】　企画展を評価してほしいと。

【薩摩学芸顧問】　企画展は、興味深いものを行っていると思っています。浜松からガラス絵を持ってきてみたり、田村一男をやってみたり、今回のものも興味深いし、串田孫一も、頑張れば興味深いものになると思うので。要するに、小さな美術館はうっかりすると泰西名画の展覧会ばかりやるところがあるのです。正月になると富士山の絵か何か飾るような。そういうことを、うちはやってきていないので、こうした点、きちんと評価してもらう方向でいいのかなと。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。

では、いろいろな方の協力を得て、下書きを吉川さんに書いていただいて、それをまたここで少し話をして、ブラッシュアップをして、それで次回にここに出して、加えて大丈夫だねといったら審議を受けて、最後のフィニッシュをして出す。まだ大丈夫ではないような、もう一悶着ありそうだったら、もう１回ずらすのかという、予算の後になるかもしれないですが、そのようなスケジュールで考えましょう。よろしいでしょうか。

その他、次回運営委員会日程調整でよろしいですか。

【平岡委員（館長）】　７月２８日火曜日。

【鉄矢会長】　１８時３０分。

【平岡委員（館長）】　はい、そういうことで。

【鉄矢会長】　議事進行にご協力をありがとうございました。

では、これにて第１回はけの森美術館運営協議会を終わりにしたいと思います。ありがとうございます。台風が近づいておりますので、気をつけてお帰りください。

―― 了 ――